

## 平成28年度から平成29年度にかけて『つなぐ』

出演者 平成28年度会長 川北 修義

平成29年度会長(平成28年度専務理事) 西森 治 貴

平成29年度専務理事 田中 豪

司会：本日の対談は、「平成28年度から平成29年度にかけて『つなぐ』」をテーマに、お話しいただきます。平成28年度の川北修義会長、平成29年度の西森治貴会長(平成28年度は専務理事)、平成29年度の田中 豪専務理事による鼎談方式と致します。

## 1. 平成28年度の事業

司会：まずはじめに、平成28年度の川北会長から、平成28年度の事業の足跡についてお話しいただきます。

## (1) 柱は会員拡大でした。

川北：平成28年度の船出の際、私は西森専務と柱をどうするかと相談をしましたところ、やはり柱は会員拡大だということになりました。目標300名を掲げ、これを達成するためには70名の拡大でいけるという話でした。当初は(笑)。



川北会長

田中：しかし、70名では足りませんでした。

西森：70名拡大を達成した時点では300名に到達しませんでした。これは、会員各位に対してYEGの良さが伝わっていないことにも一因があると思います。会員各自にYEGの良さを解っていただけるよう、様々な情報を伝えられる組織にしていけないといけませんね。

会員の中には、YEGに参加しても「愉しくない。」と辞めていく人がいます。私はもったいないと思います。YEGのことが解る前に辞めてしまうメンバーが多いからです。これはまずいなと思いました。そこで、「愉しいことをしないとイケない」という話になりました。

川北：柱であった会員拡大70名、これに加えて、私の前年度の外村会長、その前年の木崎会長は、北大阪YEGを、当たり前のことを当たり前にできる組織の強化してくれました。内的な強化と言ってもいいかもしれません。

そこで、私の代では外に出ていこうと、西森専務と相談して進めることになりました。それが枚方オクトーバーフェストの開催です。

西森：しかし、ここでも大きな課題に直面しました。事業を増やすことは重荷になり、自分に与えられた事業が増えるというのは各自にとって大変です。

川北：その後、関係諸団体や各メンバーの協力を得て、みんなの力で枚方オクトーバーフェストを成し遂げました。



西森新会長

## (2) まちづくり特別委員会・ジュニエコについて

司会：枚方オクトーバーフェスト以外の事業もずいぶんされたのではないですか？

川北：そうですね。例えば、まちづくり特別委員会の田代委員長。街づくりについても議論しました。

現在、各事業者が枚方市の再開発のビジョンを立てており、事業者毎にプランを総合的に練っている状態で、まもなく都市計画が決定される予定です。どんな街にすればいいのかをみんなで議論しています。その協議の場に、商工会議所の協力のもと、私と田代委員長が勉強会に参加させていただいております。田代委員長には田代委員長の考えがあると思いますが、現時点では伝えることにも制限があります。これは、数年のうちに実を結んでいければと思っています。

西森：田代委員長はみんなが見えないところで色々頑張っていましたね。

司会：まだまだ伝わっていないけど、北大阪YEGは本会との協力のもと、まちづくりに参画しているということですね。

ジュニエコについても大きな事業でしたね。

川北：ジュニエコは三市開催を視野に入れて動いていました。櫻井委員長や皆様の頑張り、二つの市で開催できました。交野市でも新しいイベントとしてスタートし

ました。枚方市は五六市に参加させていただきました。地域活性事業の中に、子供がジュニエコとして入っていた点で意義があったと思っています。

### (3) 他団体と連携できる組織へ

司会：他にもたくさんありますね。

川北：大きな考え方で行けば、様々な他団体(行政など)とどれだけ連携できる組織になれるのかという点なのだと思います。その意味で枚方オクトーバーフェストを開催して良かったです。

田中：対外的にも結果として出ました。

川北：ビジネスモデルにもなりました。

田中：やはり自治体や地元企業と連携してやったことが大きいですね。

川北：そう。目的を共有して連携できました。

西森：組織の中だけの活動ではなく、外に出て活動し、青年部が徐々に地域に認められる立ち位置になってきたと思っています。これまでに先輩諸兄が良い活動をしていただきましたことを引き継いだという糧があったからこそできたと思っております。

司会：枚方オクトーバーフェストは、他団体と連携して事業をしたという経験が大きかったということですね。

西森：川北会長や本会の木村常務が近隣に挨拶に行かれています。そこで地域の人とつながります。事業はつながることが大事です。担当部署で、また、他の団体と参画していくと、その先で色々な人との折衝があり、そこでつながる。つながるとそこで財産ができます。

### (4) 人を残す

西森：私は、川北会長の平成28年度に何を残したかという「人材」だと思います。会員数を80名拡大して300名に達成しました。一緒に走ってくれた人と価値観の共有ができました。価値観を共有したメンバーが増え強固な組織へとつながりました。

田中：300名という大きな会を動かせる人材を育成できたとも言えますね。

ここ3年で180名程度増えました。

川北：この組織は若い人達が若い力で動かしていけるような組織へとつながなければいけません。3年未満の会員が多いのでチャンスだと捉えて欲しいです。

## 2. 平成29年度につなぐこと

### (1) 人材育成と参加しやすい体制づくり

司会：では2つ目のテーマで、平成29年度につないで行って欲しいことを川北会長、お願いいたします。

川北：時代は動く。担い手も変わります。次の担い手には我々が引き継がせていかないとはいけません。

担い手はやりたいと自ら言うメンバーには率先し、理事をしていただき行動して欲しいです。気を付けないといけないのは、行動もしないで外から意見ばかり言う人がいます。評論家ですね。これは問題です。YEGでは会議の決め事の一つとして「評論家になるな実践者たれ」等の原則を理事に周知しています。評論家気取りの人に言いたいです。「言うんやったら、やり。まずは行動してから」と。

田中：平成28年度は枚方オクトーバーフェストがありましたから、端的に表れた面もあるのかもしれませんが。

西森：担当者も言っていましたが、事業を手探りで進めたら、経験が積み、考える力がつきます。その機会があったわけです。経験もしないで何もしないで、言うだけはダメですよ。組織をまとめるためには人を納得させないといけません。今後どのようにするか、課題だと思っています。

田中：そうですね。私も共通の認識です。そういう人を一緒にやろうと仕向けないといけません。

西森：人への対応だから人を見ないといけません。

川北：私が伝えたいのは、まずはやってみようよと。一回やってみてあかんかったら、相談し、みんなで考え、再度チャレンジすればいいと思います。

田中：全否定するなら代替案を出して欲しいということですね。

司会：会議の決め事として「Noと言う時は代案を出せ」というのもありますね。

川北：人材育成も大事だし、参加していただくように組織をつくっていくことも大事ですね。永遠の課題ですが(笑)

田中：ここ3年で入った180人以上の人に、スリープにならず、会の魅力を感じて残って欲しいですね。



川北会長・西森新会長・田中専務

### (2) 組織としての在り方

司会：組織論に移っていくわけですが、この組織をどうしていくか、どのように考えておられますか。

西森：所属していることで会に貢献しているという意識の人もいます。これはこれで有難いことだと考えています。

田中：そうですね。

川北：これからのYEGとして、提言活動がしたいという意見があります。ただし、提言活動をするためには会員数は必要です。分母を増やして、次にアクティブメンバーを増やすことが大事です。

田中：会員各自に愉しさを伝えなれないですね。

川北：YEGで商売につなげることも大事だけれども、街をよくする意識も持たないといけません。地方創生をみんなで考えていきたいですね。そのようなことをしたい人が入ってくる組織にもなって欲しいと思います。会員は、YEGに参加することで視野が広がることもあります。

田中：売り上げも上がっている人もいますでしょう。

川北：あくまでも交流が大事で、まずは自社の商売と考える人が多いのは当たり前です。その次には社会性をみつけていかないといけません。

西森：仕事にあたっては人を見る。人として経済人としての自己成長を図っていききたいと思います。

委員会を任せる委員長は、20名もの委員会メンバーをまとめていかないといけません。事業を組立て、そして実施していく過程が大事で、自身の自己成長につながります。そこで能力を伸ばしていけないといけません。仕事でつながっていない人と協力して事業を通じて人と人とのつながりになり、事業にちょっとでも関わって愉しさを覚えたら動員にもつながります。

田中：ビジネス以外のメリットを見つけていかないといけませんね。

川北：違う種類の人たちと接して、視野が広がっていく。いろんな人と出会って、人間としての広がりをもたらす。

田中：人の考えを見て、自分の考えに役立つ。

私がいつも思っていることですが、教わるのが10あったら、1は自分で学ぶ、9は人から学ぶ。この会は人からの学びの機会があります。そういう意味では、成



「会員各自に愉しさを伝えることが重要」と田中専務



「創立35周年式典の開催に全力を挙げる」と西森新会長(左)

長の機会を持てるのはいいことです。

川北：閉じこもってないで出てきたときのいいことはたくさんあります。チャレンジする気持ちもすごい。委員長を一年やって労力を使って頑張ったら、人としての成長になり、自分の中の糧になると思います。

司会：会員各自が成長できる組織にしていくということですね。

### 3. 平成29年度への期待と取組

司会：最後のテーマです。平成29年度への期待と取組についてです。まずは川北会長、お願いいたします。

川北：私からはやはり会員拡大ですね。300人という数を維持して欲しいです。会員拡大はメンバー全員でやることです。私たちが1つになるためには必要なことです。会としてやっていく意識をつくることが一丁目一番地だと思います。

次に例会の参加率を上げて行って欲しいです。手法は色々あるので工夫してください。

また、継続事業である枚方オクトーバーフェストも2回目です。3回目をするなら2回目が勝負です。勝って兜の緒を締めよ。もう一回挑戦者の意思でやらないといけません。実行委員長として、西森年度を全力で支えます。そして、創立35周年の式典の年で記念式典は対外的に発信するものです。素晴らしい式典にしないといけません。



「西森年度を全力で支える」と川北会長(左)

司会：最後に、西森会長、平成29年度を取組をお願い致します。

西森：会長所信にも書かせていただいているのですが、あえていうと、平成29年度は創立35周年の年です。記念式典の開催に全力を挙げます。また、会員に北大阪YEGの良さを感じて来ていただけるような魅力ある例会にしたいです。それぞれ担当委員長が構築し頑張ってくれています。

例会や事業などに、多くのメンバーが集まれば、交流が増えます。交流が増えると仕事が増えます。みんなが参加できる、そして、参加したい組織へとつなげていきます。



北大阪商工会議所青年部



# 会員募集

若き起業家集団  
Young Entrepreneurs Group

同じ地域の経営者として、いろいろな  
考え方や個性を持った仲間達に  
出会えれば・・・  
きっとあなたの会社の経営にも活かせる  
ことが見つかるはず！

2016年度スローガン

人を繋ぎ、地域を繋ぎ、  
未来を繋ぐ「魅力あるまちへ」

〒573-8585 枚方市大垣内町2-12-27  
TEL 072-843-5163 FAX 072-841-0173  
北大阪商工会議所青年部事務局  
<http://www.kitaosaka-cci.go.jp/yeg/>



北大阪商工会議所青年部  
定時総会

